

ケーススタディ JR九州「つばめの大冒険」

公開情報を使ったセミナー資料
事例から情報設計を考える

ケース分析 + 自社に置き換えるワーク

15

周年

セミナーの目的と持ち帰り

参加者が持ち帰るもの

01

顧客

誰のどんな場面に届けるか

02

根拠

価値を裏づける事実は何か

03

行動

見た後、何をしてほしいか

最後に、自社の販促を1枚の「伝える順番」に組み替えます。

所要 45分

講義 30分

ワーク 15分

JR九州「つばめの大冒険」のケーススタディ

2016

熊本地震で被災

2026

九州新幹線15周年
「つばめの大冒険」

公式ページで確認できる事実

車両

熊本地震で被災した800系「つばめ」

移動

海路・道路を経て博多駅へ

参加

見送り、寄せ書き、応援、実況などの参加企画

節目

九州新幹線全線開業15周年

ケースにおける情報の流れ



観察

周年を説明するだけでなく、車両の変化と沿線の参加を時系列で見せている。

※構成上の読み取り。公式の効果測定・売上成果を示すものではありません。

ケースの情報設計要素

主人公

車両「つばめ」

抽象的な周年を、追える対象にする

時間

被災から再会まで

背景→変化→到着の順に理解できる

参加

見送り・寄せ書き・応援

見るだけでなく、関われる入口を用意

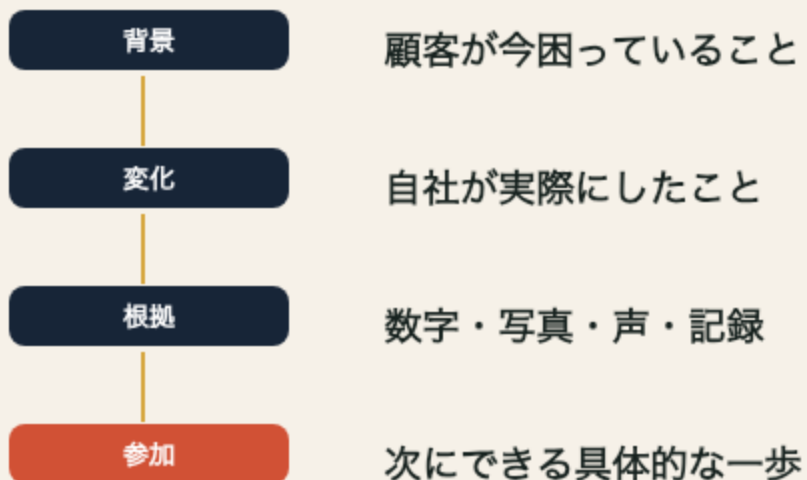
接点

特設ページ・イベント・投稿

現地とオンラインに接点がある

ケースの構成を自社資料に応用する

使える型



注意

物語の型は借りる。
固有名詞・写真・コピー・
色・ロゴは流用しない。

自社の事実
置き換えて作る。

自社資料を組み立てるワークシート

誰に 届けたい相手・具体的な場面

困りごと 相手が今、止まっていること

したこと 自社が実際にした対応・工夫

根拠 数字・写真・記録・顧客の言葉

次の一步 見た人にしてほしい行動

空欄は、いま追加取材・確認が必要な情報です。埋めるために数字や声を作らない。

ケース資料の出典と分析範囲

参照した公開情報

JR九州「つばめの大冒険 | 九州新幹線全線開業15周年プロジェクト」

https://www.jrkyushu.co.jp/train/kyushushinkansen_15th/

JR九州「感動！ふたたび！かごんまーベラス！」

<https://www.jrkyushu.co.jp/train/kagonmarvelous/index.php>

この資料の範囲

公開ページに記載された事実と、ページ構成の分析を分けて掲載。キャンペーン効果・売上・参加人数は推測していません。

45分の進行表

00-05	導入	自社の販促課題を一つ書く
05-13	ケース	公式情報から事実を確認
13-23	構成分析	背景・変化・参加・到着
23-30	応用	自社素材に置き換える
30-42	個人ワーク	伝える順番を1枚にする
42-45	共有	次に集める根拠を決める

45分・投影資料9枚・記入ワーク1枚

進行：講義30分（導入～応用）／個人ワーク15分（30～45分）

受講人数に合わせた進行

1～3人

各自1分以内で共有（最大3分）

4～16人

ペアで確認し、代表2人が共有（最大3分）

17人以上

個人記入を優先し、質問は終了後に回収

共有は42～45分の3分間。時間が押したらケース共有を縮める。

発注時に受け取る情報

参加者・目的	職種・人数・経験、終了後に取ってほしい行動
支給素材	原稿、数値、写真、ロゴ、既存資料、ブランドガイド
根拠・権利	事実確認先、公開許諾、写真・顧客事例の利用範囲
納品仕様	PowerPoint編集可否、PDF、画面比率、ページ数、配布方法
進行・確認	初稿日、確認担当、修正回数、最終承認者

不足情報は着手前に質問し、未確認の事実・権利は資料に載せない。